

平成 28 年度全国剣道指導者研修会（九州ブロック）

平成 28 年度全国剣道指導者研修会九州ブロック（主催＝日本武道館、全日本剣道連盟、全日本学校剣道連盟、主管＝宮崎県学校剣道連盟）は 1 月 28・29 日の 2 日間、宮崎県宮崎市の宮崎県体育館で、中学校保健体育科教員 48 名を含む 86 名が参加して行われた。本事業は平成 24 年度から完全実施された中学校保健体育科における武道授業の充実に向けて、剣道の授業が効果的に展開されるよう、全国 9 ブロックにおいて、毎年 5 ブロックで開催されており、今年度は 5 ブロック合計 407 名の参加者を得て、すべての日程が終了した。

■ 1 日目（28 日）

開講式では、はじめに吉川英夫日本武道館振興部長が挨拶に立った。

「日本武道館では武道 9 種目に対応した全国研修会を行っています。必修化の現状として、柔道は 6 割が、剣道は 3 割が、他種目は 1 割が採用されています。授業展開の研究事業を平成 21 年度から行っており、講師は研修会のエキスパートです。研修で熱い思いも汲み取っていただきたいと思います」

次に福本修二全日本剣道連盟副会長兼専務理事が挨拶を述べた。

「この研修会は大きな意味を持っています。剣道専門だけではなく、他教科の先生や大学生、社会体育指導員など、幅の広い方が中学校で剣道を指導する中で、剣道の魅力を伝えなくてはなりません。剣道指導のいろいろなバリエーションを知ることによって多様な生徒に対応できるのだと思います」

全日本学校剣道連盟を代表して、脇本三千雄副会長が挨拶に立った。

「この研修会のほか、全日本剣道連盟の地方講習会を受けた方が東西に分かれて研修会を行っています。各都道府県から 2 名の方が参加しています」

主管県からは小森邦彦宮崎県剣道連盟副会長と前田哲司宮崎県学校剣道連盟会長が挨拶を述べた。

初めに中学校保健体育科における武道の必修につ

いて、福本修二講師が中学校保健体育科授業において武道が必修となった経緯について、教育基本法の成立や改正の歴史に触れながら述べ、学校教育の中で武道に求められていることを解説した。また、全日本剣道連盟の武道授業に向けた取組や、自身の経験を交えた教員としての在り方についても語った。

続いて、佐藤義則講師による安全管理に関する講義が行われた。特に用具の管理について、防具、竹刀などの確認するポイントを示した。

次に脇本三千雄講師が体罰・暴力によらない剣道指導について講義。その後、尾崎城夫串間市立福島中学校教諭による剣道授業実践発表が行われた。

福島中学校では剣道授業を 1、2 年生は全員、3 年生は選択で行っており、13～15 時間を割いている。1 年生では打突への恐怖の軽減を、2 年生では基本打突の復習と応用技の学習を、3 年生では既習技の中から得意技を選んで磨くことを目標に授業を展開した。また、新聞刀を用いた真剣白刃取りなど剣道に近い動きの運動を数種類組み合わせたトレーニングを考案し、授業のはじめに必ず行わせた。木刀による剣道基本技稽古法は 1～9 本目までをすべて指導し、生徒にその中から自分の最もかっこいいと思うものを 3 本選ばせて、発表会を行った。尾崎教諭は課題として、技術指導に偏向していないか、また、打つべき機会の理解を挙げながら、剣道未経験の教員が指導できる内容の研究をしていきたいとした。最後に従来道場で指導されてきた剣道の指導法を「わかりやすく」「ゲーム性を取り入れ」「楽しく」「短時間で」「誰でもでき」「またやりたいと思わせる」ことではじめて剣道が教材となり、授業での指導法になると発表した。

午後は神崎浩講師による剣道授業における楽しい動機付けが行われた。ここでは主に導入の授業で使える教材として、刀剣や剣道の歴史、剣道の特性などが紹介された。続いて、軽米満世講師によるアイスブレイキングでは、剣道じゃんけんなど剣道の動きや用語が自然に身につく簡単な動作で生徒の心を



武道的素養を培う動きづくり

つか攪むと紹介。次に有田祐二講師により、新聞紙切り、ボール打ちが実践された。最後に軽米講師より、自然体、発声の仕方、打突部位、踏み込み足など基本動作の総合的な指導がなされた。

ここからは竹刀だけがある場合の授業例として、まず有田講師が立ち方、座り方や礼法の講義を行い、次に花澤博夫講師が面、小手、胴の空間打突、一足一刀の間合および遠間からの面打ち、小手打ち、胴打ちを指導。休憩を挟み、『ネリーブライ』に乗って剣道の動きを行うリズム剣道を指導した。他の曲として、『CHA-CHA-CHA』や『365 日の紙飛行機』、『世界に一つだけの花』なども合わせて紹介された。

最後は 8 班に分かれ、この日の剣道授業実践発表と剣道授業の現状と課題について、研究協議がなされた。その後、班ごとに発表した。

■ 2 日目（29 日）

網代忠宏講師、脇本講師が木刀による剣道基本技稽古法を指導した。はじめに木刀がない場合でも、新聞紙を丸めたものや、ペットボトル、ビニール管にスポンジを巻きつけたものなどを木刀に見立てて行えることが紹介された。木刀がある場合は、摺り上げ技などで木刀同士が触れた場合の「カンッ」という音が生徒の興味関心を引く要因になるとの話があった。その後、両講師により手本が示され、全員で 1～6 本目を練習した。

次は花澤博夫講師が防具の着装法を紹介した。胴紐が見えないところで結ぶのは難しいので、体の前で結ぶ方法や面の下につける手ぬぐいを折り紙の兜のように折って頭にかぶる方法が紹介された。

続いて、神崎講師より面打ちの段階的指導法、すなわち、その場で打つこと、一足一刀の間合から打つこと、一歩踏み込んで攻めて打つことを段階的に指導する方法が紹介された。その後、小手、胴についても段階的指導法が紹介された。

軽米講師により、観点を気・剣・体の 3 点に絞り、5 人グループで互いに評価し合う判定試合を行った。評価は絶対評価と相対評価の両方で行われた。

午後は花澤講師により、応じ技の指導法が紹介された。その後、有田講師により抜き技の指導および約束練習の指導が行われた。最後に参加者全員で自由練習として、打ち込み練習、かかり練習を行った。

研修の最後に軽米講師より、剣道授業における評価の仕方について、その時点の成果を先生と生徒が互いにわかりあって、指導を行うと効果的な学習につながる事例などを紹介しながら講義が行われた。

最後に前日の討議で出た中学校授業で切り返しを行わない理由や打つべき機会の指導法などの質問に対して講師が答えた。閉講式では軽米講師が講評を、柿木龍馬都城市立小松原中学校教諭が講師に対する謝辞を、それぞれ述べて閉会となった。